

教科「英語コミュニケーションⅢ」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 英語	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) コミュニケーション英語Ⅲ	4単位	高3《必修》	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試過去問題 ・Scramble 英文法・語法
学習の到達目標	<p>①幅広いテーマを扱った長文読解を通して、各分野の関心と知識を深め、そのテーマに沿った自分の考えを論理的に英語でまとめる力を養成する。</p> <p>②大量の英文を速く正確に読むために必要な語彙力、パラグラフ・リーディングや要約、スキミング、スキヤニングといった読解力を養成する。</p> <p>③高い読解力が必要とされる大学入試問題を解きながら入試問題に慣れるとともに、入試に対応できる学力、応用力を養成する。</p> <p>④目安として、Aクラスの生徒は英検準1級（CEFR B2）以上を目指し、他は2級（CEFR B1）以上を目指す。</p>		
評価の観点	<p>文法、語法、語彙などの英語のきまりや特徴を理解し、文章を聞いたり読んだりしてその内容を捉えることができる。また、情報や考えなどを正しい英語を使って話したり、書いたりできる。《知識・技能》</p> <p>英語の情報を正しく整理しながら、必要な情報を読み取り、考えなどを形成し、正しい英語を使って表現したり、伝え合ったりできる。《思考力・判断力・表現力》</p> <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを行うことができる。《主体性》</p>		

【定期考査における観点別評価について】

ペーパーテスト《知識・技能》《思考・判断・表現》

【点数化が難しい科目や課題について】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……… 80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%

D：未提出、未実施…………… 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試過去問題 ・ 各習熟度クラスごとの問題 	<p>大学入試問題に対応できる読解力を養う。 それぞれの習熟度に合わせて、英語の基礎力を向上させる。</p>	<p>ポイント：長文問題内に出てくる英文法・語法項目</p> <p>使用教材：大学入試過去問題、プリント</p>
1 学期 期 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試過去問題 ・ 各習熟度クラスごとの問題 	<p>大学入試問題に対応できる読解力を養う。 それぞれの習熟度に合わせて、英語の基礎力を向上させる。</p>	<p>ポイント：長文問題内に出てくる英文法・語法項目</p> <p>使用教材：大学入試過去問題、プリント</p>
2 学期 中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試過去問題 ・ 各習熟度クラスごとの問題 	<p>大学入試問題に対応できる読解力を養う。 それぞれの習熟度に合わせて、英語の基礎力を向上させる。</p>	<p>ポイント：長文問題内に出てくる英文法・語法項目</p> <p>使用教材：大学入試過去問題、プリント</p>
2 学期 期 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試過去問題 ・ 各習熟度クラスごとの問題 	<p>大学入試問題に対応できる読解力を養う。 それぞれの習熟度に合わせて、英語の基礎力を向上させる。</p>	<p>ポイント：長文問題内に出てくる英文法・語法項目</p> <p>使用教材：大学入試過去問題、プリント</p>
3 学期 期 末 考査 まで	なし		

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象

各学期、全習熟度クラス共通で行われる定期考査の成績を評価の対象とする。

(2) 学期評定の算出方法

定期考査の成績から平均点を出して評定を算出する。

(3) 年度末評定の算出方法

(2)と同じように評定を算出する。